



- 1) 日本頭痛学会代表理事 竹島多賀夫先生よりご寄稿
- 2) 頭痛の日について
- 3) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介



この度の令和6年能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

1) 日本頭痛学会代表理事 竹島多賀夫先生よりご寄稿



2024年の新たな年明けに際し、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

まずは、元日に発生しました能登半島地震で被災されました方々、関係者の方々に心よりお見舞いを申し上げます。

2022年11月より代表理事を拝命しまして、諸先輩方、ならびに多くの仲間に助けをいただきこの1年あまりを、無事に務めることができました。ご指導、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。頭痛学会の発展のための三本柱として、branding, globalization, diversityの推進を立てさせていただいています。

2023年9月に開催されました国際頭痛学会には日本頭痛学会(JHS)の会員が多く参加いただき、JHSのプレゼンスを示すことができ、大会長のMin Kyung Chu先生からも感謝のお言葉をいただきました。また、山元敏正会長が横浜で開催された第51回総会では、2つの日韓合同シンポジウムが行われ、Asian Regional Conference of Headache (ARCH)の会長である、Tissa Wijeratne先生も来日して特別講演をしてくれました。また、米国からはStewart J. Tepper先生、David W. Dodick先生が参加いただき、講演をいただくことができました。いずれのセッションでも活発な議論がなされ国際化が進んだと思います。

GPAC(Global Patient Advocacy Coalition)は国際頭痛学会のプロジェクトとして Dodick 先生, 坂井文彦先生が中心に運営されてきた活動ですが, さらに発展した非営利組織として活動をひろげていると聞いています. JHS からは坂井文彦先生と團野大介先生が関わっていただいています.

わが国からの頭痛関連の論文を PubMed で検索してみますと 2023 年は 53 報ありました. 2010 年, 2013 年, 2021 年, 2022 年は各々11, 17, 38, 41 報ですので明らかにここ数年で大きく伸びていると喜んでいきます. 会員の皆様におかれましては, さらなる国際的発信をお進めいただきますようよろしくお願いいたします.

diversity(多様性)の推進では gender のみならず, 地域やキャリアパス, 診療科を含め多様なバックグラウンドをもつ会員に多くの学会活動に参画いただきたいと考えています. 昨年実施されました代議員選挙では多くの方が立候補いただき, 女性代議員も増やすことができ, また, 代議員空白の地域を減らすことも多少は実現できました. 最近では組織運営において diversity & inclusion(包括, 一体性), すなわち D&I は必須で, 欧米ではこれに Equity(公平性)を加えて DE&I の推進がなされているようです. 多くの会員が頭痛学会の様々な活動に参加いただき, 頭痛医療の発展のために貢献いただければありがたいです. アイデアをお持ちの会員は, 是非, アプローチしやすい代議員にご相談ください.

ダイバシティ推進小委員会と若手の会員有志から, 総会時の託児所設置の要望をいただきました. 今年の大会長, 永田栄一郎先生にお願いして設置を検討いただいています.

JHS の会員数は順調に増加しており, 2023 年 11 月時点で会員数 3204 名, 専門医 986 名になりました. 仲間が増えることを喜ぶとともに, 全国あまねくすべての患者が最適な頭痛医療が受ける環境を整えるべくさらなる会員数の増加, 専門医の育成が必要と考えています. 専門医委員会(辰元宗人 委員長)において専門医試験対策の問題・解説集の第 2 集の準備を進めていただいております, 今年中に刊行予定です.

また, 会員, 非会員を問わず頭痛専門医を目指す方がどのようにすれば頭痛専門医を取得できるのか, また, 自分がしている頭痛診療を見つめ直すために頭痛外来の見学や研修をしたいとのご希望をお聞きすることも増えてきました. 産婦人科専門医であり頭痛専門医である稲垣美恵子先生に, 「頭痛専門医への道-産婦人科編(仮称)」を Web コンテンツとして準備いただいております. また, 頭痛専門医や, 頭痛診療に関する疑問や質問を気楽にお尋ねいただく窓口として, あり方委員会の中に「頭痛学会リエゾン」を作ることになりました. まずは東日本を滝沢翼先生, 西日本を團野大介先生に副委員長として担当いただくことにしています. ご相談案件が増えてくればメンバーも増やして参ります.

わが国からの国際発信を増やすためには国内における頭痛研究を活性化する必要があります. わが国では

頭痛領域の競争的研究資金の配分が少ないことが大きな問題です。欧米でも 20 年以上前からこの問題が叫ばれてきました。国際頭痛学会のリーダーが中心となり、片頭痛は burden が重くかつ罹患者が多いこと、その結果として社会全体の疾病負担が大きく対策が必要であるとの主張をメディアや医学雑誌で発信され、米国では NIH の研究予算配分が改善したとのことです。JHS でも頭痛研究推進小委員会(永田栄一郎 委員長)を設置し、会員の頭痛関連研究費獲得、頭痛研究推進を支援していただく体制にしています。昨年の成果としては、頭痛関連の研究費応募の情報を会員に周知することで数件の研究費獲得ができました。また、今年から、頭痛学会として基礎研究に対する助成を試験的に3年間の計画で開始いたします。多くの会員の意欲的な研究計画の応募をお待ちしています。

2024 年が頭痛学会のさらなる発展の年となるよう、諸先輩方のご指導を賜り、若い会員の力を結集して、多様な企画にチャレンジして参りたいと思いますので何卒よろしくお願い致します。

2024 年 1 月吉日

代表理事 竹島多賀夫

2)頭痛の日について

頭痛性疾患に関する啓発活動の一環として、日本頭痛学会と日本頭痛協会では 2 月 22 日を「頭痛の日」と制定し、毎年ポスター等を作製し発信することで頭痛に関する知識の普及に努めています。また、頭痛診療のイメージカラーであるグリーンを基調としたリボン装着やライトアップなど、各地で様々な取り組みを行っています。その活動の一部についてホームページにご紹介していますのでご覧ください。また、頭痛の日公知活動にご賛同いただける場合はぜひご協力ください。

「2 月 22 日は頭痛の日」 <https://www.jhsnet.net/pdf/zutunohi222.pdf>

3)頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します

- 稀であるが影響力の大きい遺伝子バリエントがもたらした片頭痛病型の遺伝的背景に関する新知見

Bjornsdottir G, et al. Rare variants with large effects provide functional insights into the pathology of migraine subtypes, with and without aura. Nat Genet. 2023 Oct 26. doi: 10.1038/s41588-023-01538-0.

掲載日:2023/11/13 https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_146.pdf

- 片頭痛予兆時の Ubrogapant 投与による頭痛発生に対する抑制効果

Dodick DW, et al. Ubrogapant for the treatment of migraine attacks during the prodrome: a phase 3, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, crossover trial in the USA. Lancet. 2023 Nov 15: S0140-6736(23)01683-5. doi: 10.1016/S0140-6736(23)01683-5.

掲載日:2023/12/6 https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_147.pdf

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見, 問い合わせは<jhs-office@shunkosha.com>までお願いいたします.

問い合わせは<jhs-office@shunkosha.com>までお願いいたします.